

市立

いちかわ

自然博物館だより

2010年度

10-11月号

(通巻 130号)

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！

いきもの
写真館



撮影：土居幸雄さん

ルリビタキ
市内では、晩秋から姿を見せるようにな
ります。丸い瞳と瑠璃色の羽が魅力的で
棒の先など目立つ所によく止まります。

P 1 ● いきもの写真館
ルリビタキ

P 2 ● 長田谷津 いきもの暦
3 10月・11月の暦から
10月5日 群生するミソソバ
ほか

P 4 ● NEWS!
ノコギリクワガタの
雌雄モザイク

P 5 ● 街かど自然探訪
原木 真間川沿いを歩く

● くすのきのあるバス通りから
ゴーヤとヤブガラシ

P 6 ● 自然博物館 スポットライト
9月の企画展より
アキカラマツ ほか

P 7 ● わたしの観察ノート
7月～8月ごろの記録

P 8 ● 行事案内



長田谷津 いきもの暦

10月・11月の暦から



● 10月5日 群生するミゾソバ

秋の長田谷津では、タデ類の花が目立ちます。アカマンマの通称でおなじみのイヌタデや穂を垂れて咲くボントクタデ、珍しいニオイタデなどがピンクや白の花を咲かせます。タデの名はつかないもののヤノネグサやアキノウナギツカミ、イシミカワなどもタデ科の野草で、花や実が見られます。

ミゾソバは「溝に生えるソバ」の意味で、ソバに似たタデ科の野草です。長田谷津には多く生え、白からピンク色の花を咲かせます。花よりもつぼみの時の姿が、かわいらしくて印象的です。



● 10月6日 オオカマキリが目につく

春に生まれたカマキリのたくさんの幼虫は、生い茂る草に隠れて、夏の間はあまり人目につきません。その間、バッタなどを食べながら成長し、9月ごろ最後の脱皮をして成虫になります。

成虫のカマキリは種類によって見られる場所にちがいががあります。ハラビロカマキリは園路沿いや施設周りなどの開けた場所、コカマキリは林縁の草むらなどに多く、オオカマキリは長田谷津の湿地全体、特にジュズダマやアメリカセンダングサなど大型の野草に身を潜めて獲物を待ち構えています。10月になると産卵のためか大きなメスが活発に動き、園路からでもよく目につきます。



● 11月6日 クロコノマチョウの蛹

クロコノマチョウは、ここ数年で数を増やしたジャノメチョウ科のチョウです。もともとは西日本や四国・九州などに分布していましたが、最近は関東でも見られるようになりました。

長田谷津では、成虫はやぶや茂みに潜っていてなかなか見つかりません。幼虫や蛹なら慣れれば見つかります。それは、食草（幼虫の餌）がジュズダマの葉なので、いかにも青虫にかじられた感じの葉を探せば、そこにいるというわけです。葉の裏にぶら下がる蛹は透明感あふれる緑色で、飾り物のようです。



● 11月16日 ヤブコウジの赤い実

長田谷津の11月は、もっとも秋らしいころあいです。斜面林の木々や湿地の草が黄色く色づき、せせらぎ園のモミジの紅葉も中旬から見ごろを迎えます。さまざまな木の実がなり、どんぐりが茶色く熟して落ちてきます。

ヤブコウジは、長田谷津の斜面林で部分的に群生する低木です。低木と言っても実際の高さは20センチもありません。草に隠れてしまう大きさです。11月ごろ、ヤブコウジの常緑の葉の下では、赤い丸い実がなっています。近づいて小さな葉っぱをそっとどかすと、鮮やかな赤い実に出会うことができます。



こちらの内容は、

20年分の自然観察の記録を使ってつくった暦(毎日のできごと)を掲載した
ガイドブック「長田谷津いきもの暦」を参考に作成しました。

企画展会場でのみ販売(ホームページでは見られません) 500円

企画展 長田谷津いきもの暦 平成23年1月30日まで

会場 自然博物館(市川市動植物園内) 特別展示室

毎月展示を替えて、その月の見どころをパネル・標本・飼育などでご紹介いたします。

NEWS!

ノコギリクワガタの 雌雄モザイク

7月、市内でノコギリクワガタの雌雄モザイク個体が採集されました。

雌雄モザイクとは一つの個体の中にオスの特徴とメスの特徴をもつ部分が明らかかな境界をもって混在しているもので、大変珍しいものです。

今回採集されたものは、体長約4・3センチメートルで、メスの個体の一部にオスの特徴が見られます。



頭部のアップ

頭の右側から胸の右端にかけてオスの特徴が現れています。

(白線で境界を表してみました。)

アゴの大きさ、触覚の長さ、頭や胸の形などで、違いが見られます。



ノコギリクワガタのオスの足は長いのですが、この個体の足は短く、メスの足であることがわかります。



街かど自然探訪

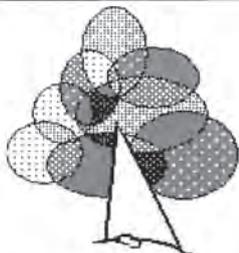
おじゃまします!

ばらき 原木・真間川沿いを歩く

真間川沿いの遊歩道を歩くと、原木のいろいろな風景に出会えます。京葉道路付近からは、昔から変わらずにある原木山妙行寺の緑の茂みが見られます。旧道から下流には、かつて水田だった場所に新しい住宅地が拡がり、草むらのエンマコオロギなどの鳴き声と一緒に、子どもたちの元気な声が聞こえてきます。畑や空き地、大型車の駐車場なども目立ち、その間に水路の名残が見られ、大きなシダレヤナギや穂をつけたヨシの茂みがありました。ホームセンター北側の道路に出ると舗装された道は終わりですが、左岸は踏み分け道が一応河口まで続きます。



倉庫街の先に道路や鉄道の大きな橋がいくつもかかり、さらにその先で真間川は東京湾へと注ぎ込みます。



くすのきのあるバス通りから No.75

ゴーヤとヤブガラシ

9月22日現在、都心の真夏日は過去最多71日になり、猛暑日は12日だったそうです。39.9度の京田辺市の記録はツルが巻きついていたのであるのでしょうか。7月半ば朝の涼しいうちに庭の草取りをしました。その後、朝の時間帯でも30度前後なので、庭は眺めるだけになってしまいました。ゴーヤは二階に届き、ヤブガラシは一本の木を覆い尽くし、オシロイバナは夜になると香りを放ちます。ゴーヤの花はセセリチョウが、オシロイ

バナはシジミチョウ、ヤブガラシはキアゲハ、アオスジアゲハ、ツマグロヒョウモン、黒いアゲハ3種類の他ハチが沢山やってきます。ツブツブの花にアゲハが止まりそうで止まらずに、小刻みに羽を動かして、蜜を吸っている様子は、青空をバックに絵のようです。木のそばにヤブガラシの根があり、地上部を取り払っても根をとっていないので、毎年出てきます。年々茎が太くなっているような気がします。

(M. M.)

9月の企画展より

アキカラマツ

夏は、野草を水挿しで長持ちさせることがむずかしく（水揚げや水温の関係）、また子どもたちに人気の昆虫に力を注いだため、植物の展示は少なくなりました。春から継続しているドングリの芽生えの鉢植えとコブシの枝の水挿し展示（枯れると新しい枝に交換）以外にがんばったのがアキカラマツでした。

最初は水挿しで展示しましたがすぐしおれてしまい、小さな株を掘り上げて鉢植えにしたらうまくいきました。天井のスポットライトと台上のLEDライトの照明だけで、枯れることなく夏を越すことができました（花は咲きませんでした）。



写真は鉢に植えたばかりで元気ありませんが、毎日の水やりで好調を保ち、新しい枝葉も次第に伸びました。

クツワムシ

博物館の周辺には鳴く虫が多く、なかでもクツワムシは多数生息しています。博物館の建物のまわりでも、夜になるとガチャガチャガチャと大きな声が響きます。入手が容易なので、大きな水槽で飼育展示しました。

しかし、夜行性ゆえ日中は鳴くわけでも動くわけでもないクツワムシに子どもたちの反応はイマイチで、むしろ大人がよく見ていました。写真パネルで前足に耳があることを紹介したので、みなさん驚いていました。

イネ科を好むバッタ類と異なり、クツワムシはクズなどを好みます。手近な餌としてホトトギスを与えてみると、とてもよく食べました。また、水をよく飲むので、毎朝霧吹きで水を与えました。



ナナフシを飼っていた大きな水槽に赤玉土を敷いて、クツワムシ水槽にしました。イネ科の葉っぱは飾りで、餌は中央に写っているホトトギスです。これから咲くという時期に、少しかわいそうでしたが、クツワムシの餌として重宝しました。

わたしの 観察ノート

◆大町より

- ・夜7時40分頃、動物園券売所前でハクビシンを見ました(7/9)。フェンスの上端をとことこ歩いていました。

金子謙一(自然博物館)

◆大野町より

- ・臨時駐車場の周辺の梨畑でニイニイゼミが鳴いていました(7/3)。
- ・市川北高周辺の水路にハイイロゲンゴロウ、アジアイトトンボ(やご)、ドジョウがいました(7/11)。草むらには羽根を休めているアジアイトトンボがいました。

◆柏井町より

- ・斜面林からクマゼミの鳴き声がきこえてきました(8/7)。

以上 K.H.さん

◆堀之内貝塚より

- ・エノキの大木の上方に、フクロウ1羽がとまっていた(7/17)。平成20年8月以来、実に2年ぶりの観察です。

根本貴久さん(菅野在住)

- ・今年もマヤランが咲きました(7/3)。サガミランはまだつぼみでした。

道下誠さん(中国分在住)

- ・散策会では数本だったキツネノカミソリが一面に咲きそろい見頃を迎えました(8/8)。

◆じゅん菜池緑地より

- ・オオバノトンボソウが咲いていました(7/4)。

以上 谷口浩之さん(北国分在住)

- ・オオバノトンボソウが6株咲いていました(7/3)。

道下誠さん

◆坂川旧河口一帯より

- ・ウミネコ一羽が江戸川をさかのぼって上流方向へ飛び去りました(7/31)。
- ・抜けるような青空を背景に、アオサギ4羽、その後2羽が河川敷上空を南西方向に飛んでいきました(8/28)。残暑は衰える気配がありませんが、移動の季節なのではないでしょうか。

◆菅野より

- ・塀際のカエデ類の木に頭の毛がまだ白いオナガの幼鳥4羽がいて、近くを歩く私に向かって一斉に警戒の声を上げました(8/8)。

以上 根本貴久さん

◆真間山より

- ・斜面林でミンミンゼミの大合唱の中にツクツクホウシの鳴き声が混じるようになりました(8/9)。

◆スズムシ

- ・6月10日頃にふ化したスズムシが次々成虫になり鳴き始めました(8/11)。去年の夏、里見公園で分けていただいた虫が秋に卵を産み、冬越しをしたものです。

以上 M.T.さん

- ・数年前から飼育しているスズムシが鳴き出しました(8/6)。昨年より10日遅れて卵からかえり、10日早く鳴き出しました。今春は低温が続き、今夏は高温が続いているためでしょうか。

佐久間直次さん(柏井町在住)

7・8月ともに平均気温が30度を超え降水量は数十ミリしかなく、記録の上でも高温少雨の日の連続でした。



行事案内



長田谷津 散策会 お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 10月2日㊤、11月6日㊤、12月4日㊤、 午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会 お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

*集合場所など、詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	場所
江戸川沿いの林	平成23年1月16日(日)午前10時～11時30分	国府台周辺

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか。 (雨天中止)

- ・日時 10月17日㊤、11月28日㊤、12月19日㊤ 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けのお手伝いをして下さいますか。 (申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 10月3日㊤、11月7日㊤、3月6日㊤ 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

企画展

「長田谷津いきもの暦」

博物館特別展示室で開催中

平成23年1月30日まで

市立市川自然博物館だより
 第22巻 第4号 (通巻第130号)
 平成22年10月 発行
 編集・発行/市立市川自然博物館
 〒272-0801 千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/>